

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る
 – アンケート調査による児童と保護者の運動・
 スポーツの実施状況の観点から –

世戸 俊男^{*1} 矢寺 重敏^{*2} 古賀 典之^{*3}

**Researching Local Sports Promotion and its policies
 in Hirakata City Survey Statistics of daily Sports Activities
 for Children and their Family members**

Toshio Seto^{*1} Shigetoshi Yatera^{*2} Noriyuki Koga^{*3}

キーワード

キーワード：児童、保護者、全国対比、課題

1. はじめに

枚方市は、大阪府の東北部にあつて京都府・奈良県と境を接しており、旧石器時代には台地上に人が住み、江戸時代には岡新町・岡・三矢・泥町の4か村は、宿場町「枚方宿」に指定され、淀川を上下する過書船の中継地とされていた。このように枚方市は、淀川の水運を利用した交通の要衝であったとされている。

明治時代には、警察署・裁判所・群役所などが設置され、北河内の行政の中樞の役割を担い、また、明治43年の京阪電車の開通は、大阪近郊住宅地としての可能性を示唆し、そして秋の風物詩である「枚方菊人形」は枚方市を全国に知らすことになった。

枚方市市制は、昭和22年8月1日に施行され、市制施行当時の人口は41,887人（内、男20,458人、女21,429人）、世帯数10,112世帯であったが、平成18年12月31日現在では面積65.08 km²、人口409,114人（内、男119,272人、女209,842人）、推定平均年齢41.9歳、世帯数164,130世帯（世帯平均2.49人）に達している¹⁾。

以上のような立地条件のもと、財団法人枚方体育協会（以下、枚方体育協会）は、昭和22年「市民の体力向上とアマチュア・スポーツの普及をはかり、あわせて各種スポーツ団体の組織の充実と社会体育施設の推進をはかりもつて市民スポーツの振興に寄与する。」ことを目的に4団体で設立され、昭和49年6月に組織の強化を図るため加盟14団体で法人

*1 せと としお：大阪国際大学 人間科学部 スポーツ行動学科 教授（2007.12.18受理）

*2 やてら しげとし：財団法人枚方体育協会 総務課 課長

*3 こが のりゆき：大阪YMCA国際専門学校 スポーツ&ウエルフェア学科 講師

化した。

現在は、加盟23団体となり、各種大会等の開催やスポーツ施設の運営・管理（枚方市より委託）など、市民スポーツの振興に寄与している。

また、枚方体育協会では、平成16年4月にFor All Sports of「ひらかた」-「する」「みる」「支える」スポーツの確立 - をコンセプトに将来のビジョンを立案し、現在このコンセプトを確立するために計画を推進しており、この将来ビジョンは平成16年度から10年間で実現すべき目標（target）を掲げ、その実現に必要な環境整備（environment）を設定している²⁾。

本調査では、枚方市の東西南北に位置する藤阪小学校、山田小学校、五常小学校、船橋小学校の4小学校に対して、「運動・スポーツについて」アンケート方式による調査を実施した。本アンケート調査の趣旨としては、①枚方市立の4小学校に通学する児童における運動・スポーツの実施状況等について、②枚方市立の4小学校に通学する児童保護者（代表者1名）の運動・スポーツの実施状況等についての調査を実施することで、今後、枚方体育協会が枚方市におけるスポーツ振興を推進するための方策を試みることにした。

2. 調査の方法

調査対象者

本調査の対象者は、枚方市で開校している小学校46校から、東西南北に位置する4小学校に対しアンケート調査を行った。その調査対象等の属性は以下の通りである。

対象者1：枚方市立の4小学校に通学する1年生から6年生の児童総数は、1,974名（平成18年5月1日現在）であり、男子児童数1,025名、女子児童949名にアンケート用紙を配布し回収した。そして、児童における有効回収数（率）を4小学校、小学校別、性別、学年区分別に表-1、表-2に示した。

表 - 1. 児童有効回収数および回収率1（4小学校，小学校別，性別）（単位：回収率=%，未=未記入）

方位置	小学校名	総児童数(男子/女子)	回収数(男子/女子),未	回収率(男子/女子),未
東	藤阪小学校	513 (273/240)	332 (175/157)	64.7 (52.7/47.3)
西	山田小学校	332 (174/158)	220 (107/113)	66.3 (48.6/51.4)
南	五常小学校	468 (218/250)	381 (171/208),2	81.4 (44.9/54.6),0.5
北	船橋小学校	661 (360/301)	465 (240/224),1	70.3 (51.6/48.2),0.2
小学校計		1,974 (1025/949)	1,395(693/702),3	70.7 (49.6/50.2),0.2

表 - 2. 児童有効回収数および回収率2（学年区分別）（単位：回収率=%，未=未記入）

方位置	小学校名	低学年	中学年	高学年,未
東	藤阪小学校	104 (31.3)	117 (35.2)	111 (33.4)
西	山田小学校	88 (40.0)	69 (31.4)	63 (28.6)
南	五常小学校	125 (32.8)	63 (16.5)	186 (48.8),7 (1.8)
北	船橋小学校	160 (34.4)	169 (36.3)	136 (29.2)
小学校計		477 (34.1)	418 (29.9)	496 (35.5),7 (0.5)

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

対象者2：枚方市立の4小学校に通学する児童の保護者（代表者1名）は、1974名にアンケート用紙を配布し回収した。そして、保護者における有効回収数（率）を4小学校、小学校別、性別、年代別に表-3、表-4に示した。

表 - 3. 保護者有効回収数および回収率1(4小学校, 小学校別, 性別) (単位: 回収率=%, 未=未記入)

方位置	小学校名	総児童数(男子/女子)	回収数(男子/女子),未	回収率(男子/女子),未
東	藤阪小学校	513	322 (88 /242) ,2	62.8 (27.2/74.7) ,0.2
西	山田小学校	332	228 (59 /169)	68.7 (25.9/74.1)
南	五常小学校	468	376 (67 /309) ,5	80.3 (17.6/81.1) ,1.3
北	船橋小学校	661	438 (100/338) ,15	66.3 (22.1/74.6) ,3.34
	小学校計	1974	1,386 (306/1058) ,22	70.7 (22.1/76.3) ,1.6

表 - 4. 保護者有効回収数および回収率2 (年代別) (単位: 回収率=%, 未=未記入)

方位置	小学校名	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	以上年代不明
東	藤坂小学校	2 (0.6)	178 (54.9)	134 (41.4)	8 (2.5)	2 (0.6)
西	山田小学校	6 (2.6)	139 (61.0)	65 (28.5)	14 (6.1)	4 (1.8)
南	五常小学校	1 (0.3)	179 (47.0)	170 (44.6)	10 (2.6)	21 (5.5)
北	船橋小学校	7 (1.5)	274 (60.5)	160 (35.3)	12 (2.6)	0 (0.0)
	4小学校計	16 (1.2)	770 (60.5)	529 (38.2)	44 (3.2)	27 (1.9)

調査方法および調査内容

本アンケート調査方法は、枚方市立の4小学校に対して調査員が訪問し、アンケートの趣旨を説明したうえで留置法にて実施した。

児童に対する調査内容は、以下の通りである。

- ・ 年齢、性別、学年
- ・ 運動・スポーツ実施状況について
- ・ 興味のあるスポーツ調査について
- ・ 運動・スポーツ継続期間について

保護者に対する調査内容は、以下の通りである。

- ・ 性別、年齢
- ・ 運動・スポーツ実施状況について
- ・ 運動・スポーツ団体への参加状況、運動・スポーツ団体への認知状況、運動・スポーツに対する支出状況について
- ・ 市（行政）事業（スポーツイベント）に関する認知状況について
- ・ 家族（ファミリー）観戦運動・スポーツについて

調査期間

本アンケートの調査期間は、平成17（2005）年3月1日から平成17（2005）年3月17日ま

でとして実施した。

分析方法

回収したすべてのアンケート用紙は、統計処理ソフトエクセル2003ウィンドウズ版（マイクロソフト社）、およびSPSS 12.0Jウィンドウズ版（SPSS社）を活用し記述統計、クロス集計を用い分析を行った。

3. 児童に対する調査結果

3-1. 児童の運動・スポーツ実施状況

本アンケート調査は、アンケート用紙を回収後に4小学校全体、小学校別、性別、学年区分別による記述統計、クロス集計を用いて分析を行った。

本調査の結果、児童に対する「学校の授業以外での過去1年間に運動・スポーツ活動を実施（実践）状況」は、図-1が示す通り、運動・スポーツを実施した児童n=1,276（91.2%）、運動・スポーツ活動を実施しなかった児童n=110（7.9%）、未記入者n=12（0.9%）であり、小学校別や性別、学年区分別の結果からは有効回収数に数量的な差は見られるが、運動・スポーツ活動を実施した児童は90%前後と高い割合を示していた。

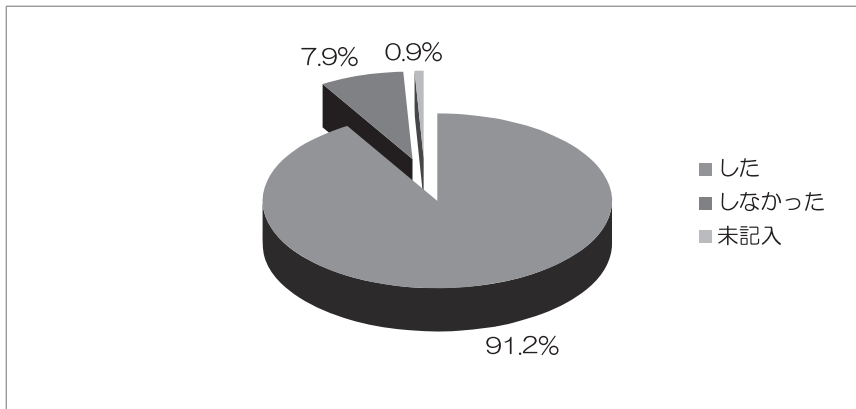


図-1 過去の1年間の運動・スポーツ実施状況 児童 n=1398

そして、運動・スポーツ活動を実施したと回答した児童に対して、「どのような運動・スポーツ種目を実施したか」に関しては、表-5が示す通り、1位：水泳n=786（15.5%）、2位：ドッジボール n=667（13.2%）、3位：サッカー n=432（8.5%）、4位：バドミントン n=423（8.4%）、5位：野球 n=286（5.7%）が上位運動・スポーツ種目であった。

この結果からは、性別において上位運動・スポーツ種目に相違が見られた。男子児童では、上位種目に「野球」が見られるが、女子児童では、「ソフトバレーボール」や「バスケットボール」が上位種目に見られた。

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

表-5. 過去1年間に運動・スポーツを実施した種目, 児童 複数回答 n=5061

種目	n	率	種目	n	率	種目	n	率
陸上	120	2.4%	水泳	786	15.5%	ドッジボール	667	13.2%
野球	286	5.7%	ラグビー	14	0.3%	ウォーキング	176	3.5%
ソフトテニス	52	1.0%	テニス	259	5.1%	ジョギング	173	3.4%
卓球	179	3.5%	少林寺拳法	39	0.8%	ソフトバレーボール	78	1.5%
柔道	14	0.3%	ソフトボール	57	1.1%	フットサル	33	0.7%
バレーボール	71	1.4%	空手道	35	0.7%	健康体操	50	1.0%
スキー、スノーボード	245	4.8%	バドミントン	423	8.4%	インラインスケート	159	3.1%
野外活動	191	3.8%	相撲	22	0.4%	スケートボード	36	0.7%
日本拳法	5	0.1%	バスケットボール	165	3.3%	その他	226	4.5%
剣道	27	0.5%	カヌー	18	0.4%	合計	5061	100.0%
サッカー	432	8.5%	ゲートボール	23	0.5%			

表-6. 過去1年間に運動・スポーツを実施しなかった理由, 児童 複数回答 n=216

理由	n	率	理由	n	率
下手だから	15	7.0%	費用がかかるから	10	4.7%
嫌いだから	17	8.0%	勉強・習い事で忙しいから	9	4.2%
つまらないから	9	4.2%	身体の調子がよくないから	10	4.7%
疲れるから	18	8.5%	やりたいスポーツが無いから	19	8.9%
面倒だから	8	3.8%	施設が無いから	12	5.6%
チャンスが無いから	42	19.2%	施設が遠いから	10	4.7%
ほかにしたいことがあるから	21	9.9%	その他	2	0.9%
仲間がいないから	12	5.6%	合計	216	100.0%

また、運動・スポーツ活動を実施しなかったと回答した児童の、「運動・スポーツを実施しなかった理由について」に関しては、表-6が示す通り、1位：チャンスが無いから n=42 (19.2%)、2位：ほかにしたいことがあるから n=217 (9.9%)、3位：やりたいスポーツが無いから n=19 (8.9%) が上位理由を占めており、小学校別、性別、学年区分別において実施（実践）しなかった理由において多少順位に相違が見られた。

3-2. 興味のある（今後行いたい）運動・スポーツ

枚方市立の4小学校の児童に対して「興味のある（今後行ってみたい）運動・スポーツ活動」に関しては、表-7が示す通り、1位：テニス n=453 (14.7%)、2位：サッカー n=269 (8.7%)、3位：スキー・スノーボード n=267 (8.7%)、4位：野球 n=220 (7.2%)、5位：バドミントン n=185 (6.0%) であった。

小学校別の結果からは、上位種目に相違が見られ、興味のある（今後行いたい）運動・スポーツ種目に地域差があることが示された。そして、性別からは、「3-1. 運動・スポ

ーツの実施状況」と同様の結果が得られ、男子児童では「サッカー」や「野球」が上位種目に見られるが、女子児童では「バスケットボール」や「バレーボール」が上位種目に見られた。また、男子児童は小学校別や性別において上位種目の順位に変動が見られるが、女子児童ではテニスを1位として以下の順位に変動が見られた。

学年区分別では、上位種目の順位に変動が見られるが、種目の相違は中学年に「卓球」の種目が見られる程度であった。

表-7. 今後、実施したい興味のある運動・スポーツの状況、複数回答 n=3076

種目	n	率	種目	n	率	種目	n	率
陸上	67	2.2%	水泳	116	3.8%	ドッジボール	163	5.3%
野球	220	7.2%	ラグビー	31	1.0%	ウォーキング	18	0.6%
ソフトテニス	70	2.3%	テニス	453	14.7%	ジョギング	14	0.5%
卓球	182	5.9%	少林寺拳法	57	1.9%	ソフトバレーボール	42	1.4%
柔道	55	1.8%	ソフトボール	44	1.4%	フットサル	45	1.5%
バレーボール	107	3.5%	空手道	80	2.6%	健康体操	7	0.2%
スキー、スノーボード	267	8.7%	バドミントン	185	6.0%	インラインスケート	65	2.1%
野外活動	41	1.3%	相撲	7	0.2%	スケートボード	58	1.9%
日本拳法	9	0.3%	バスケットボール	175	5.7%	その他	7	42.4%
剣道	60	2.0%	カヌー	84	2.7%	合計	3076	100.0%
サッカー	269	8.7%	ゲートボール	11	0.4%			

3-3. 運動・スポーツ継続期間

枚方市立の4小学校に通学する1年生から6年生児童の「運動・スポーツの継続期間」に関しては、図-2が示すとおり、小学生までn=86(6.2%)、中学生までn=167名(11.9%)、高校までn=193名(13.8%)、大学までn=67(4.8%)、大人になっても続けたいn=780(55.8%)、今すぐやめたいn=11(0.8%)であり、「大人になっても続けたい」がn=780(55.8%)と最も高い値を示していた。

そして、この結果を時系列(経年)的に見ると、小学校から高校までは、運動・スポーツ実施期間の値に増加が見られるが、大学までになるとその値は減少し、「大人になっても続けたい」では再び増加が見られた。

3-4. 児童の運動・スポーツ実施状況に関するまとめ

(1) 本調査における児童の運動・スポーツ実施状況に関する結果より、枚方市立の4小学校に通学する1年生から6年生児童における運動・スポーツ活動の実施状況としては、運動・スポーツを実施した児童と運動・スポーツを実施しなかった児童との割合が示す通り、約90%と非常に高い割合で運動・スポーツが実施されており、実施運動・スポーツ種目の性別において上位種目に相違が見られたが、高い割合で運動・スポーツが実施されていたことは明らかである。

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

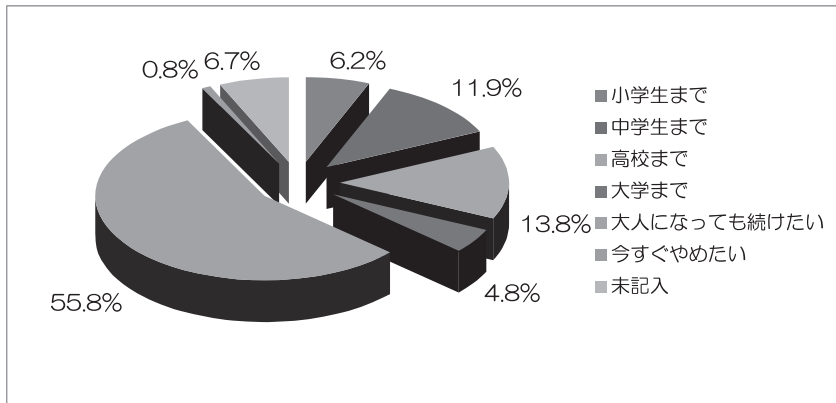


図-2 運動・スポーツ継続期間 n = 1398

そして、実施した運動・スポーツ種目の結果から、児童の運動・スポーツの実施種目を「競技志向タイプ」、「健康志向タイプ」、「レジャー・レクリエーション志向タイプ」と3種の志向タイプに分類することができた。また、この運動・スポーツを実施するには、「児童自身の意思」や「保護者の意思」によって、志向タイプが選択され実施されていたことが推測された。

(2) 興味のある（今後行いたい）運動・スポーツの結果から、テニスが1位となった要因としては、この時期には、「テニスの王子様」、「エースをねらえ」等のアニメマンガの再放送がテレビにて放映され、児童たちの話題となっていたことが考えられ、このことは、マス・メディアが児童に与える影響が大きいことを意味していると考えられる。

(3) 運動・スポーツ継続期間の結果からは、約5割以上の児童が運動・スポーツを「大人になっても続ける」ことを希望しており、この運動・スポーツに対する関心の高さは、「小学生から高校生まで」は「競技志向タイプ」の運動・スポーツ（一部の児童が大学まで）を部活動や地域の活動組織で実施している児童が多く、以後、「大人になっても続けたい」の再増加要因としては、「健康志向」や「レジャー・レクリエーション志向」のタイプの運動・スポーツを実施することを考えている結果であることが推測できた。

また、性別、学年区分別からは大きな相違は見られないが、注意すべきことは、上述のように、「児童自身の意思」において継続期間を判断しているより、「保護者の意思」による判断が大きいことが考えられた。

本調査の児童に対するアンケートは、「児童自身の意思」が十分に反映されているとは考えにくく、「保護者の意思」が大きく介在していることが考えられ、この「保護者の意思」は児童の学年が低くなるほどその介在度はより大きくなると考えられた。

児童における3種の志向タイプの運動・スポーツ活動の実施は、保護者が児童に対する「希望」や「期待」が大きく、そして、この「希望」や「期待」は、児童の運動・スポー

ッ活動が「家族（家庭）のコミュニティづくり」の一翼を担っているものと考ええる。

このように児童に対するアンケート調査の結果から、本調査に協力を得た枚方市立の4小学校以外の枚方市全域の小学校に通学する1年生から6年生の児童に関しても、本調査と同様の運動・スポーツ活動が実施されていることが考えられた。

4. 保護者に対する調査結果

4-1. 保護者の運動・スポーツ実施状況

保護者における「過去1年間における運動・スポーツ実施状況」に関しては、図-3が示すとおり、運動・スポーツを実施した保護者 n=915 (66.0%)、運動・スポーツを実施しなかった保護者 n=454 (32.8%)、未記入 n=17 (1.2%) であり、6割以上の保護者が運動・スポーツを実施していたことが分かった。

小学校別や性別そして年代別の結果からは、山田小学校の保護者が最も低く、五常小学校の保護者において最も高い値を示していたが、このことは、有効回収数の数量的な違いがこのような結果をもたらしたと推測できるが、いずれの小学校においても約6割以上の保護者が運動・スポーツを実施していた結果を得ていた。

また、運動・スポーツを実施した保護者に対する「運動・スポーツの実施種目」に関しては、表-8が示す通り、1位：ウォーキング n=310 (12.6%)、2位：水泳 n=264 (10.8%)、3位：バドミントン n=225 (9.2%)、4位：テニス n=189 (7.7%)、5位：スキー・スノーボード n=168 (6.9%) が上位種目を占めた。

この運動・スポーツ実施種目の結果では、保護者の性別において児童の運動・スポーツ実施状況と同様に男性保護者では、上位種目に「野球」や「サッカー」が上位種目に見られた。また、女性保護者の上位種目は、4小学校全体の結果とほぼ同様であり大きな種目相違は見られなかった。そして、年代別においても全体や小学校別と同様の結果を得ていた。

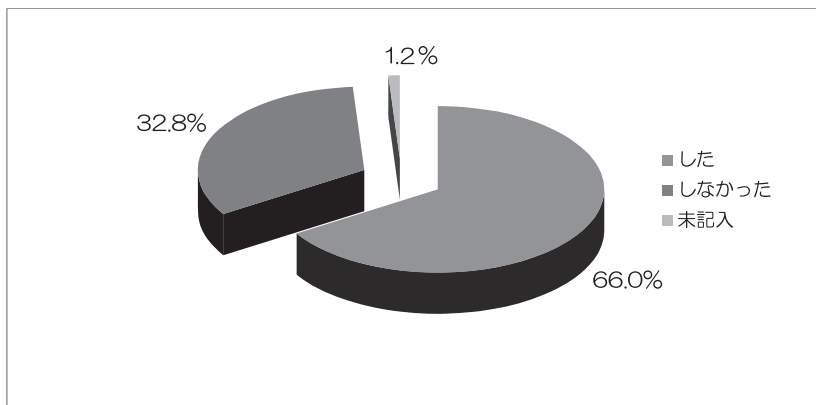


図-3 過去の1年間の運動・スポーツ実施状況 保護者 n=1386

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

表-8. 過去1年間の運動・スポーツ実施した種目, 保護者 複数回答 n=2437

種目	n	率	種目	n	率	種目	n	率
陸上	64	2.6%	水泳	260	10.7%	ドッジボール	86	3.5%
野球	110	4.5%	ラグビー	14	0.6%	ウォーキング	306	12.6%
ソフトテニス	34	1.4%	テニス	185	7.6%	ジョギング	99	4.1%
卓球	98	4.0%	少林寺拳法	10	0.4%	ソフトバレーボール	60	2.5%
柔道	9	0.4%	ソフトボール	34	1.4%	フットサル	14	0.6%
バレーボール	7	73.2%	空手道	2	0.1%	健康体操	102	4.2%
スキー、スノーボード	165	6.8%	バドミントン	225	9.2%	インラインスケート	8	0.3%
野外活動	116	4.8%	相撲	2	0.1%	スケートボード	8	0.3%
日本拳法	13	0.5%	バスケットボール	18	0.7%	その他	159	6.5%
剣道	60	2.5%	カヌー	13	0.5%	合計	2437	100.0%
サッカー	85	3.5%	ゲートボール	1	0.0%			

運動・スポーツを実施しなかった保護者は4小学校全体でn=454(32.8%)を示しており(図-3)、小学校別や性別および年代別では山田小学校の保護者が最も高く、五常小学校の保護者において最も低い値が示された。そして、運動・スポーツを実施(実践)しなかった理由としては、表-9が示す通り、1位：仕事や家事で忙しいから n=223(26.0%)、2位：チャンスが無いから n=178(20.8%)、3位：費用がかかるから n=72(8.4%)が上位理由を占めた。

表-9. 過去1年間に運動・スポーツ実施しなかった理由, 保護者 複数回答 n=874

理由	n	率	理由	n	率
下手だから	31	3.7%	費用がかかるから	71	8.4%
嫌いだから	41	4.8%	仕事や家事で忙しいから	220	26.0%
つまらないから	5	0.6%	身体の調子がよくないから	34	4.0%
疲れるから	36	4.3%	やりたいスポーツが無いから	50	5.9%
面倒だから	21	2.5%	施設が無いから	26	3.1%
チャンスが無いから	176	20.8%	施設が遠いから	43	5.1%
ほかにしたいことがあるから	56	6.6%	その他	11	1.3%
仲間がいないから	26	3.1%	合計	847	100.0%

この運動・スポーツ実施しなかった理由の結果からは、性別において上位理由に相違が見られた。特に、女性保護者の上位理由には「費用がかかる」からが各小学校に見られるが、男性保護者にはほとんど見られなかった。

4-2. 運動・スポーツ団体加入状況

保護者における、「運動・スポーツを実施するために加入した団体」に関しては、図-4が示す通り、学校の部活 n=699(47.5%)、民間のスポーツクラブ等 n=420(28.5%)、地域のサークル等 n=283(19.2%)、その他 n=71(4.8%)であり、「学校の部活」が最も高い値

を示しており、ほぼ半数を占めていた。この「運動・スポーツ団体加入状況」においては、小学校別、性別、年代別においてもほぼ同様の結果を得ていた。

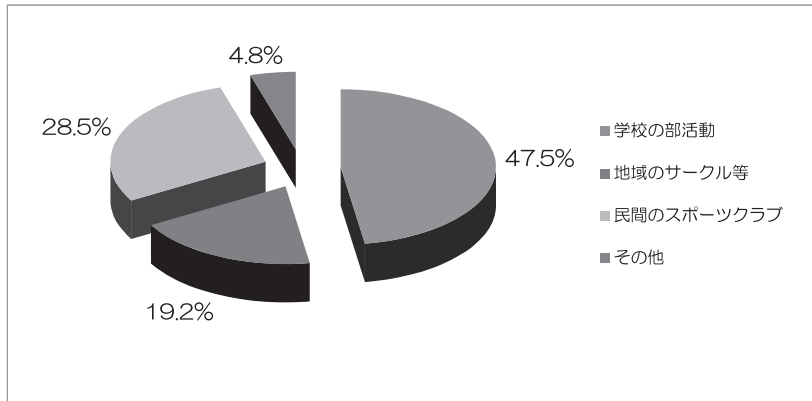


図-4 過去の1年間の運動・スポーツ団体加入状況 保護者 複数回答 n=1473

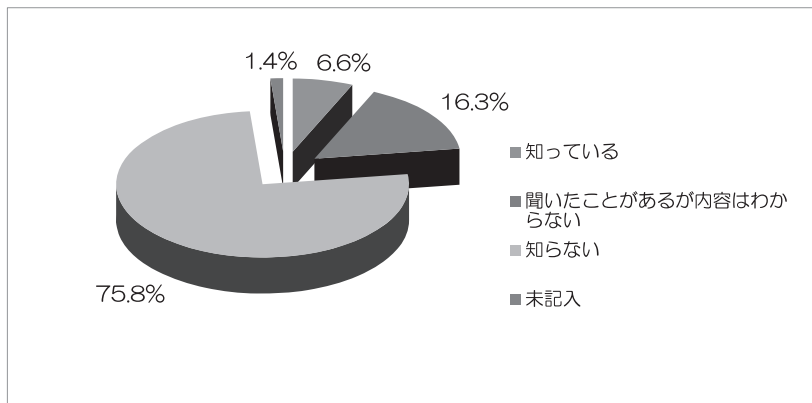


図-5 総合型地域スポーツクラブの認知度 保護者 n=1386

4-3. 総合型地域スポーツクラブの認知度

保護者に対する「総合型地域スポーツクラブの認知度」に関しては、図-5が示す通り、知らない n=1050 (75.8%)、聞いたことがあるが内容は分からない n=226 (16.3%)、知っている n=91 (6.6%)、未記入 n=19 (1.4%) であり、「知らない」が最も高い値を示していた。そして、小学校別、性別、年代別においても同様の結果を得ていた。

4-4. 総合型地域スポーツクラブへの入会希望度

保護者に対して、別紙にて総合型地域スポーツクラブの活動についての説明を行い、「運動・スポーツ活動を実施するために総合型地域スポーツクラブへの入会を希望するか」に関しては、図-6が示す通り、ぜひ入会したい n=105 (7.6%)、入会してもよい n=812 (58.6%)、入会したくない n=360 (26.0%)、未記入 n=109 (7.9%) であり、「入会してもよ

い」が最も高い値を示し、「ぜひ入会をしたい」と回答をした保護者を合わせると約68%の保護者が入会を希望することが示された。この結果は、小学校別、性別、年代別においても同様の結果を得ていた。

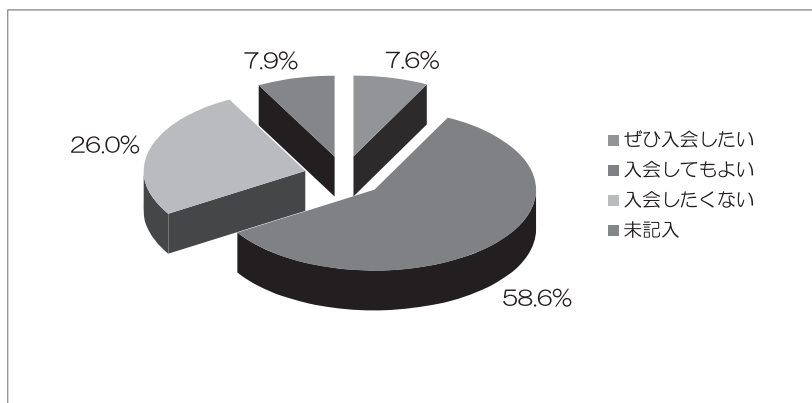


図-6 総合型地域スポーツクラブの入会希望度 保護者 n=1386

4-5. 入会希望の運動・スポーツ運営組織

保護者に対して「どのような運動・スポーツの運営組織に入会したいか」に関しては、図-7が示す通り、愛好者同士や家族で楽しめるサークル n=617 (47.7%)、総合型地域スポーツクラブ等 n=347 (26.8%)、民間のスポーツクラブ n=290 (22.4%)、その他 n=39 (3.0%) であり、愛好者同士や家族で楽しめるサークルが最も高い値を示していた。そして、小学校別、性別、年代別においてもほぼ同様の結果を得ていた。

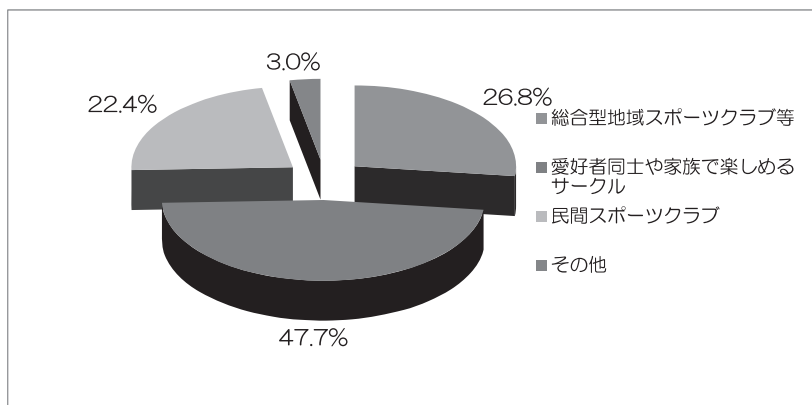


図-7 入会を希望運動・スポーツ運営組織 保護者 n=1329

4-6. 運動・スポーツ活動に対する費用支出

保護者に対して「運動・スポーツを実施するための費用支出」に関しては、図-8が示す通り、支出する n=870 (67.0%)、支出しない n=428 (33.0%)、未記入 n=88 (6.3%) であり、

「支出する」が最も高い値を示していた。そして、小学校別、性別、年代別においても同様の結果を得ていた。

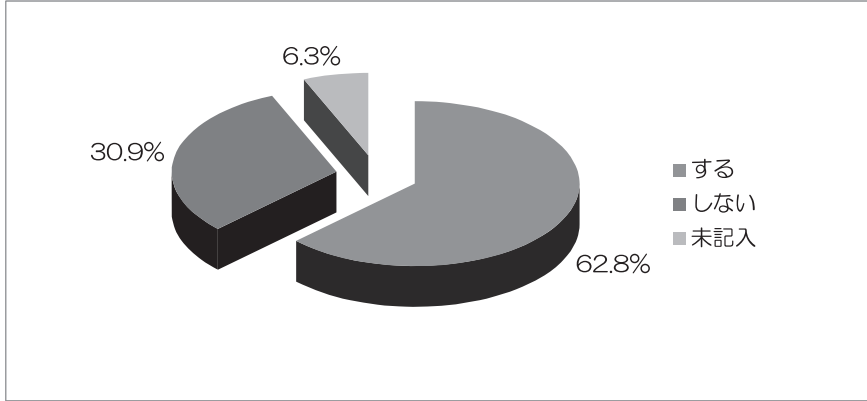


図-8 運動・スポーツ活動に対する費用支出 保護者 n=1386

4-7. 財団法人枚方体育協会の認知度

保護者に対する「財団法人枚方体育協会の認知度」に関しては、図-9が示す通り、知らない n=798 (59.6%)、聞いたことがあるが内容は分からない n=328 (24.5%)、知っている n=213 (15.9%)、未記入 n=47 (3.4%) であり、「知らない」が最も高い値を示していた。そして、小学校別、性別、年代別に関しても同様の結果を得ていた。

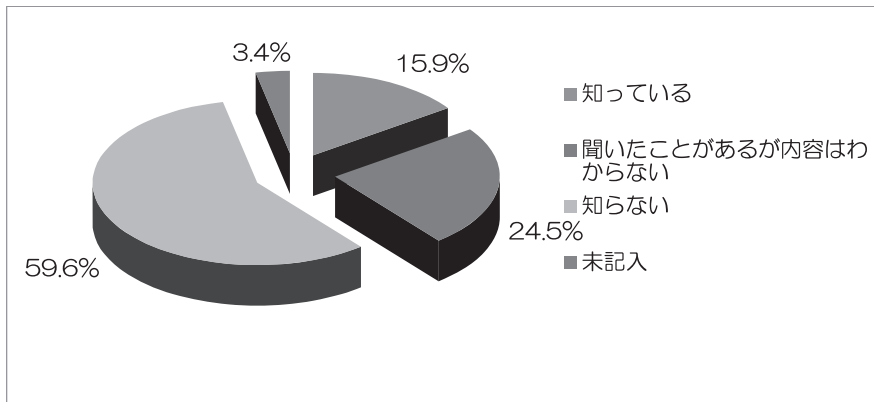


図-9 財団法人枚方体育協会の認知度 n=1386

4-8. 財団法人枚方体育協会事業（イベント・サービス）の認知度

保護者に対する「枚方市で実施されている運動・スポーツ行事の認知度」に関しては、表-10が示す通り、1位：枚方市小学生陸上競技大会 n=615 (19.9%)、2位：新春走ろうかい n=592 (19.1%)、3位：枚方市小学生駅伝大会 n=500 (16.2%)、4位：枚方市総合体育大会 n=389 (12.6%)、5位：野外活動センターの教室 n=342 (11.1%) が上位行事であった。そして、小学校別でもほぼ同様の結果を得ていた。また、性別、年代別においては順位に

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

変動は見られるものの上位行事に関しては、ほぼ同様の結果を得ていた。

表-10. 枚方市で開催されているスポーツ事業の認知度，複数回答 n=3094

事業名	n	率	事業名	n	率
新春走ろうかい	592	19.1%	体協だより	108	3.5%
枚方市総合体育大会	389	12.6%	枚方市小学生駅伝競走大会	500	16.2%
総合体育館の教室	291	9.4%	枚方市小学生陸上競技大会	615	19.9%
野外活動センターの教室	342	11.1%	市民スポーツカーニバル	162	5.2%
市民チャリティゴルフ大会	95	3.1%	合計	3094	100.0%

4-9. 運動・スポーツ観戦希望状況

保護者における「家族で観戦してみたい運動・スポーツ種目」に関しては、表-11が示す通り、1位：野球 n=661 (19.5%)、2位：サッカー n=553 (16.3%)、3位：バレーボール n=342 (10.1%)、4位：テニス n=326 (9.6%)、5位：水泳 n=165 (4.9%) が上位観戦種目であり、「野球」が最も高い値を示した。そして、小学校別、性別においても順位の変動が見られるが、種目に関しては、ほぼ同様の結果であった。年代別では、各年代に多くの観戦を希望する種目に相違が見られた。

表-11. 家族で観戦したい運動・スポーツ種目状況，複数回答 n=3319

種目	n	率	種目	n	率	種目	n	率
陸上	130	3.9%	水泳	160	4.8%	ドッジボール	40	1.2%
野球	650	19.6%	ラグビー	114	3.4%	ウォーキング	29	0.9%
ソフトテニス	31	0.9%	テニス	320	9.6%	ジョギング	20	0.6%
卓球	52	1.6%	少林寺拳法	46	1.4%	ソフトバレーボール	32	1.0%
柔道	49	1.5%	ソフトボール	39	1.2%	フットサル	29	0.9%
バレーボール	337	10.2%	空手道	48	1.4%	健康体操	25	0.8%
スキー、スノーボード	109	3.3%	バドミントン	67	2.0%	インラインスケート	14	0.4%
野外活動	61	1.8%	相撲	79	2.4%	スケートボード	19	0.6%
日本拳法	20	0.6%	バスケットボール	140	4.2%	その他	58	1.7%
剣道	39	1.2%	カヌー	20	0.6%	合計	3319	100.0%
サッカー	540	16.3%	ゲートボール	2	0.1%			

4-10. 保護者の運動・スポーツ実施状況まとめ

(1) 枚方市立の4小学校に通学する1年生から6年生児童の保護者における「運動・スポーツ実施状況」では、6割以上の保護者が運動・スポーツを実施しており、実施された運動・スポーツ種目から児童と同様に「競技志向タイプ」、「健康志向タイプ」、「レジャー・レクリエーション志向タイプ」の3種の志向タイプに分類されたが、児童との相違は、上位種目や選択された上位種目以外の運動・スポーツの実施から、「健康志向」や「レジ

ヤー・レクリエーション志向」が強いことが確認できた。

(2)「運動・スポーツ活動の実施しなかった理由」からは、女性保護者は家計を預かっており、運動・スポーツ活動を実施するには「費用がかかる」ことを認識していることが確認できた。そして、このことは、「46. 運動・スポーツ活動に対する費用支出」の結果からも67%の保護者が「支出する」と回答していることから運動・スポーツ活動には費用がかかることの認識は明らかとなった。

(3)「運動・スポーツ団体加入状況」の結果からは、児童の保護者たちの多くは、生徒および学生時代に学校の部活動にて運動・スポーツの実施し、卒業後から現在までは、地域や民間の運動・スポーツ団体に入会（加入）して活動を実施して来たことが明らかとなった。この活動の継続は、保護者たちが活動の必要性や重要性を理解して運動・スポーツ実施していることが確認できた。

(4)「総合型地域スポーツクラブの認知度」や「財団法人枚方市体育協会の認知度」に関しては、「知る人ぞ知る」組織として運営・管理されていることが推測された。このことは、「総合型地域スポーツクラブ」を別紙にて説明したことによる約68%の入会希望を導いた結果や「仲良し」や「仲間意識」、そして、「家族での共通の趣味や楽しみ」を重要な入会要素として運営・管理組織にて活動を実施することを望んでいることが確認できた。

(5)「枚方市で実施されている運動・スポーツ行事の認知度」に関しては、「児童（子供）参加型行事」、「保護者参加型行事」、「児童・保護者（家族）参加型行事」と3つのタイプに分類することができ、「児童・保護者（家族）参加型行事」のように楽しめる行事や「児童（子供）参加型行事」のような競技性の高い行事に高い関心が寄せられていることが推測されたが、これらの行事を主催・主管している団体については無関心であることも同時に明らかになった。

(6) 家族で観戦を希望する運動・スポーツ種目には、「プロ・スポーツ」と「アマチュア・スポーツ」に分類することができ、特に、上位観戦種目はナショナリズムの影響が大きいことが推測された。なかでも、日本においては伝統的な「野球」や近年飛躍的な発展を遂げた「サッカー」等は、「プロ・スポーツ」として、そのクラブ運営と管理の方法を確立されており、そこに、マス・メディア等の影響が大きく関与していることが推測された。

このように、枚方市立の4小学校に通学する保護者の運動・スポーツ実施状況に関しては、児童の運動・スポーツの実施が「家族（家庭）のコミュニティづくり」であったことに加えて、「他者や地域へのコミュニティづくり」に一翼を担っていることが確認できた。

5. 全国調査および枚方市スポーツ振興ビジョン調査との比較

SSF笹川スポーツ財団は、2001年より4年ごとに10歳代の男女2,500人を対象とした「青少年のスポーツライフ」と1992年から隔年ごとに20歳代以上の男女3,000人を対象とした「スポーツライフ」に関する全国調査を実施している。そして、「青少年のスポーツライフ・データ2006」³⁾ および「スポーツライフ・データ2006」⁴⁾ の結果と本調査と類似する

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

質問に対する回答結果を比較検討した。

青少年のスポーツライフ・データ2006の調査と本調査における小学生児童（高学年）における「過去1年間に実施した運動・スポーツ種目では、表-12が示す通り、本調査における運動・スポーツ実施種目の順位結果が全国調査の結果に反映していることが確認できた。

表-12. 過去1年間に実施した運動・スポーツ種目比較

	本調査（高学年：n=496）	全国調査（高学年：n=388）
1位	水泳	水泳
2位	ドッジボール	ドッジボール
3位	バドミントン	野球
4位	サッカー	サッカー
5位	テニス	バスケットボール

出所：SSF笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ2006」 p.28より引用作表

表-13は、「過去1年間に運動・スポーツを実施（実践）しなかった理由」に関する結果であり、全国調査1位の「勉強や習い事で忙しいから」の理由は、本調査においては5位。そして、「自分のやりたいと思う運動・スポーツがないから」の理由に対する本調査の結果は4位を示していた。この結果では、全国調査では運動・スポーツを実施しなかった理由に関する選択肢は13項目であったのに対し、本調査の選択肢は15項目であり、両調査結果の上位に同様の理由が見られたことは、全国調査の結果を反映していることが確認できた。

表-13. 過去1年間に運動・スポーツを実施しなかった理由比較

本調査（高学年、複数回答：n=72）		全国調査（高学年、複数回答：n=41）	
1位	疲れるから	1位	勉強や習い事で忙しいから
2位	チャンスがないから		自分のやりたいと思う運動スポーツがないから
3位	下手だから	2位	疲れるから
	面倒だから	3位	面倒だから
	他にしたいことがあるから		下手だから

出所：SSF笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ2006」 p.47より引用作表

表-14は、「運動・スポーツ活動の継続期間」に関する結果であり、全国調査の結果は、本調査における「3-3. 運動・スポーツ継続期間」で得た回答と同様の結果が見られた。

表-14. 運動・スポーツ活動の継続期間比較

	本調査 (高学年：n=466)	全国調査 (高学年：n=387)
小学校まで	2.8%	9.0%
中学校まで	12.0%	12.4%
高校まで	17.0%	13.4%
大学まで	5.6%	2.1%
大人になっても続けたい	62.0%	41.9%
今すぐやめたい	0.6%	1.3%
わからない (未記入)	—	19.9%

出所：SSF笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ2006」 p.48より引用作表

表-15は、「興味のある (今後やってみたい) 運動・スポーツ種目」結果であり、全国調査における興味のある (今後やってみたい) 運動・スポーツ種目の結果と本調査における調査の結果の対比では、順位に違いが見られるものの「運動・スポーツの種目」に関しては、ほぼ同様の種目が選択されていたことが確認できた。ただし、この質問の選択肢では、全国調査は72種目の選択肢に対して、本調査では31種目の選択肢と全国調査と本調査とは約2倍以上の選択種目であったが、両調査の上位結果に同様の種目が見られた。

表-15. 興味のある (今後やってみたい) 運動・スポーツ比較

	本調査 (高学年：n=496)	全国調査 (高学年：n=262)
1位	テニス	野球
2位	スキー・スノーボード	テニス (硬式)
3位	バスケットボール	サッカー
4位	サッカー	水泳
5位	野球	バスケットボール

出所：SSF笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ2006」 p.50より引用作表

次に、「スポーツライフ・データ2006」の調査と本調査における保護者との対比において表-16は、全国調査では20歳以上の成人を調査対象に、そして、本調査では調査対象の児童の保護者 (20歳代以上であった。) に対して、「過去1年間に実施した運動・スポーツ種目」の結果である。

運動・スポーツ上位種目に相違が見られるが、この相違は、全国調査での運動・スポーツ種目の選択肢は63種目であり、本調査では31種目の選択肢で、その種目数の差から得られたと考える。

そして、両調査において選択された上位種目に共通することは、「健康やレジャー・レクリエーション性」が高い運動・スポーツ種目であり、本調査における「4-1. 保護者の運動・スポーツ実施状況」の結果の通りと考えられた。

枚方市におけるスポーツ振興との方策を探る

表-16. 過去1年間に実施した運動・スポーツ比較

	本調査（複数回答：n=2451）	全国調査（複数回答：n=4146）
1位	ウォーキング	散歩（ぶらぶら歩き）
2位	水泳	ウォーキング
3位	バドミントン	体操（軽い体操、ラジオ体操等）
4位	テニス	ボウリング
5位	スキー・スノーボード	筋力トレーニング

出所：SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ2006」 p.24より引用作表

表-17は、「過去1年間に運動・スポーツを実施しなかった理由」に関する結果であり、両調査の上位結果に相違が見られるが、この両調査の選択肢は同数であり、言葉の表現に違いがあるものの類似した質問であることから、この上位結果の違いは、地域性からの結果であると考えられる。

表-17. 過去1年間に運動・スポーツを実施しなかった理由

	比較本調査（複数回答：n=853）		全国調査（複数回答：n=590）
1位	やりたいスポーツが無いから	1位	時間がないから
2位	仕事や家事で忙しいから	2位	機会がないから
3位	施設が遠いから	3位	病気のため、体調不良だから

出所：SSF笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ2006」 p.55より引用作表

表-18は、本調査では「家族で観戦を希望する運動・スポーツ種目」について31種目の選択肢から選択された結果であり、全国調査では「直接観戦を希望する運動・スポーツ種目」について14種目の選択肢と記述により得られた結果である。両調査の質問では、「家族観戦」と「個人観戦」との違いはあるものの両調査の目的は類似していると考えられることから対比した。

そして、上位種目には、「完全選択方式」の本調査と「選択方式と記述式」の全国調査との違いにより、全国調査の結果に多彩な観戦を希望する運動・スポーツ種目が見られたと推測されるが、本調査の上位種目に見られる「野球」や「サッカー」は、全国調査の結果と同様の順位であり、このことは、「4-9. 運動・スポーツ観戦希望状況」の結果の通りと確認できた。

表-18. 家族での観戦希望運動・スポーツ種目および直接観戦希望運動・スポーツ種目比較

	本調査（複数回答：n=3386）	全国調査（複数回答：n=1859）
1位	野球	プロ野球
2位	サッカー	サッカー日本代表試合（五輪代表含む）
3位	バレーボール	Jリーグ
4位	テニス	大相撲
5位	水泳	K-1など格闘技

出所：SSF笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ2006」 p.40より引用作表

枚方市では、平成19年3月に発行された「枚方市スポーツ振興ビジョン」⁵⁾のなかで、平成17年2月に調査された「スポーツ生活実態調査－枚方市スポーツ振興ビジョン策定に資する基礎的調査研究－」の結果より、本調査と類似の調査について比較検討を行った。

表-19は、「総合型地域スポーツクラブの認知度」についての両調査結果であり、質問の表現に違いがあるものの、特に問題がないことが考えられ比較検討を行った。

そして、この結果としては、両調査とも「知らない」が最も高い値を示しており、枚方市スポーツ振興ビジョンの調査結果は、本調査「4-3. 総合型地域スポーツクラブの認知度」における結果と同様であると考えられ、また、本調査の「総合型地域スポーツクラブの認知度」の結果は4小学校の保護者の認知度の域をこえて、枚方市の市民全体におよぶことが考えられた。

表-19. 総合型地域スポーツクラブの認知度状況

本調査 (n=1386)			枚方市スポーツビジョン調査 (n=510)		
認知状況	n	率	認知状況	n	率
知っている	9	16.6%	知っている	19	3.7%
聞いたことがあるが内容はわからない	226	16.3%	見たり聞いたりしたことはある	38	7.5%
知らない	1050	75.3%	知らない	409	80.2%
未記入	19	1.4%	不明	44	8.6%

出所：「枚方市スポーツ振興ビジョン」 p.20より引用作表

本調査とSSF笹川スポーツ財団の青少年に対する調査および成人に対する調査、そして枚方市スポーツ振興ビジョン調査の対比で、質問紙の文言や設問法に多少の違いが見られるが、これらは類似性の高い質問との判断でき、検討した結果から各調査データは、相互に反映していることが明らかとなったと推測された。

6. これからの課題（おわりに）

本調査は2005（平成17）年に実施され、当時、財団法人枚方体育協会が法人設立30周年を迎えて、枚方市のよりよいスポーツ振興を推進するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

そして、市立の4小学校に通学する児童およびその保護者のアンケートの有効回収数（率）から、4小学校全体、小学校別、性別、学年区分別（児童対象）、年代別（保護者対象）にて分析を行い、市立の4小学校に通学する児童および保護者における運動・スポーツの実施状況についての現状を把握することで、これからの枚方市におけるスポーツ振興に対する枚方体育協会が推進する方策について試みた。

運動・スポーツ活動を実施することは、様々な先行研究により、その効果や影響等が明らかになっており、本調査においてもその効果や影響について、いくつかの要素が確認できたものとする。

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

また、再検討の目的でもある枚方市のスポーツ振興における枚方体育協会が推進するための方策については、本調査での児童および保護者の運動・スポーツ実施状況の結果から、「スポーツ振興を推進する行政組織」、「スポーツ振興を推進する運営・管理組織」、「スポーツ振興を受ける受益者（市民、参加者）」の三者間の連帯化・連携化の構築にリーダーシップを発揮することこそ、今後、枚方体育協会が担う中心的な役割であることが考えられた。

そして、2007年（平成19）年3月に枚方市で発行された。「枚方市スポーツ振興ビジョン - 誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを目指して -」が示す通り、2005（平成17）年8月25日に「枚方市スポーツ振興ビジョン検討委員会」が設置され、2007年（平成19）年3月現在までに5回の会合が開催され、スポーツ振興を推進する行政組織（スポーツ振興課）と運動・スポーツを運営・管理する諸団体^{a)}とで、連帯化・連携化の構築に向けた取り組みが始まっており、枚方市広報、インターネット・ホーム・ページ、小学校に対するダイレクト・メール（約25,000部）配布等によって、市民に対してスポーツ振興推進への動機付け、意識付け（土台づくり、底辺拡大）推進が現在行われている。

以上のことから、本調査における枚方体育協会が枚方市におけるスポーツ振興の推進に寄与する中心的な役割とその方策の今後は、枚方体育協会が、より市民活動の身近な存在であることが重要であり、そして、枚方体育協会のリーダーシップは、枚方市の受益者（市民、参加者）に対する「スポーツ・サービスの方向性」を行政機関や関連諸団体に対し明確に提案（提言）できるシステムの構築が必要であると考えられた。（図-10）

下記に現時点における「スポーツ・サービスシステムの方向性」について考慮すべき4つの事項について示す。

(1) 10年の長期計画を立案すれば、現小学生は高校生・青年となり、運動・スポーツに親しむ人口が増加することが考えられる。高校生では学校の課外活動での参加が増加する事が考えられ、青年に達した者は、地域社会や就業場所の近接地域での商業ベースの運動・スポーツクラブ（センター）や地域社会でのスポーツ・グループに参加する者が増加する可能性がある。よって、若者志向のスポーツ・グループは如何なる形態、組織、場所で参加するのかをプログラミングする必要があると考える。

(2) 保護者については、10年後は成人後期になり、健康問題は更に真実さを感じる事が考えられ、医療と結びつけた活動や地域社会での社交性を強調したクラブ育成等を企業・行政・非営利団体等の協力、連携を組織的に計画する必要がある、特に、場の確保は重要な視点であると考えられる。

a) 財団法人枚方体育協会会長、枚方市レクリエーション協会顧問、枚方市スポーツ少年団本部長、枚方市障害者スポーツ連絡会代表、枚方市体育指導員協議会会長、枚方市中学校長会顧問、枚方市老人クラブ連合会会長、京都教育大学体育学助教授、健康厚生労働省認定健康運動実践指導者

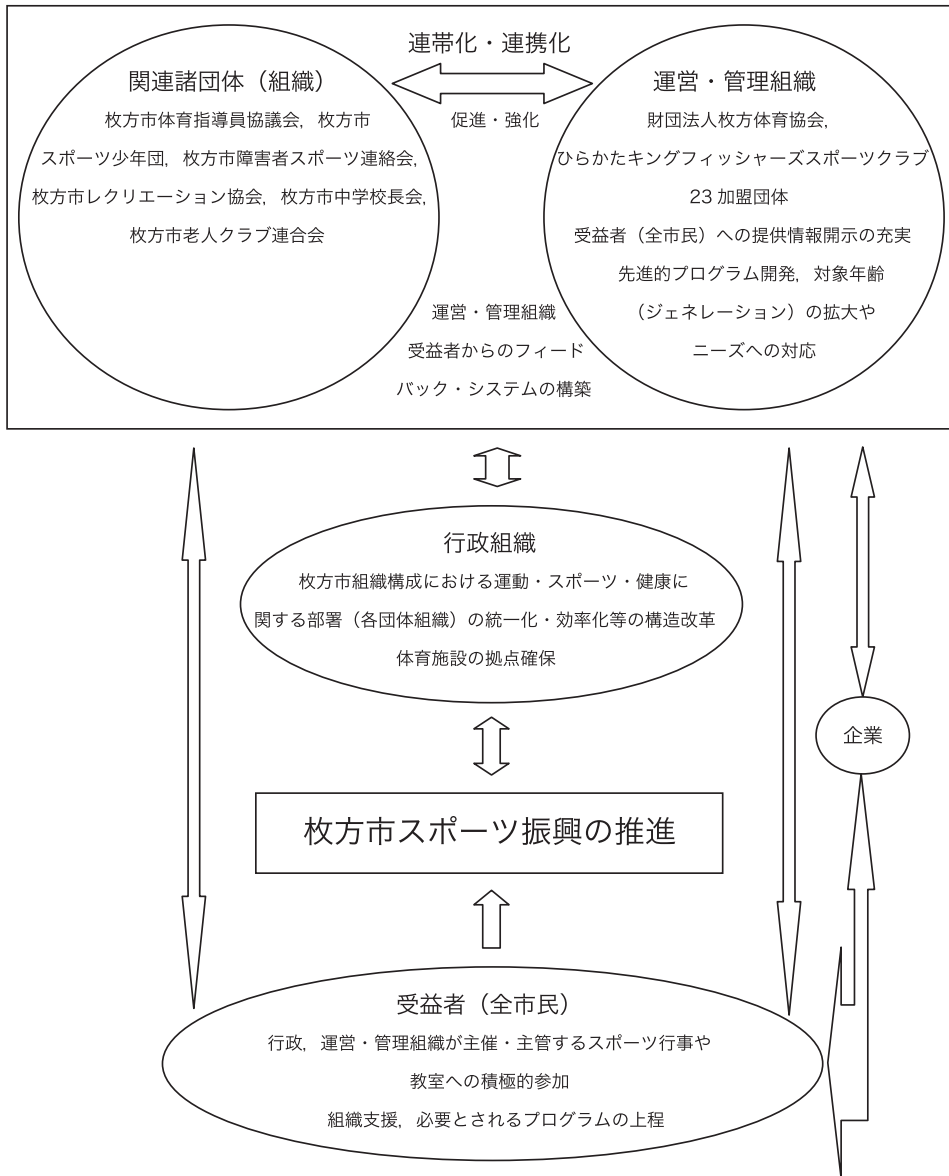


図-10 枚方市スポーツ振興推進システム

(3) 体育協会に加盟する諸スポーツ団体は、10年後にはメンバーの高齢化が進みつつあり、各クラブは現状を継続しつつ若返りの方策を論議し、現代の青年の社会的ニーズを捉えた多様な活動形態で運営・管理する「スポーツクラブ」として再生する必要があると考える。

枚方市におけるスポーツ振興とその方策を探る

(4) 枚方市における子ども、青年、一般、障害者、高齢者、後期高齢者等に存在する社会問題をスポーツ活動で積極的に捉え、問題解決の為にアクション・プランを創り出す必要があると考える。

7. 参考文献

- 1) 「第36回 枚方市統計書 平成18年度版」、発行：枚方市、発行年月：2007（平成19）年3月、編集：総務部総務課
- 2) 「財団法人 枚方体育協会ホームページ」、URL: <http://www8.ocn.ne.jp/~taikyo21/index.html>
- 3) 「青少年のスポーツライフ・データ2006-10代のスポーツライフに関する調査報告書-」、発行者：小野 清子、発行年月日：2006年3月15日、発行所：SSF笹川スポーツ財団
- 4) 「スポーツライフ・データ2006-スポーツライフに関する調査報告書-」、発行者：小野 清子、発行年月日：2006年12月25日、発行所：SSF笹川スポーツ財団
- 5) 「枚方市スポーツ振興ビジョン-誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを目指して-」、発行：枚方市、発行年月：2007（平成19）年3月